

作曲家別演奏法《ベートーヴェン》

～作風の変化 奏法をまじえて～

インスピレーションの赴くままの個性的な演奏も魅力的ですが、作曲家の意図に近づくためには、作曲家の意図をどのように演奏に反映させるかという観点も大切。そんな声にお応えして、昨年度より開講しております、作曲家別演奏法の第2弾！今年はお要望が多かった、ベートーヴェンを取り上げます。初期、中期、後期における彼の音楽の特徴と変遷、また作曲の際、使用したピアノと作品の関係などについて、久元祐子先生の華麗な演奏を交えてお話させていただきます。



講師 久元 祐子 先生

東京藝術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て東京藝術大学大学院修士課程を修了。読売日本交響楽団、新日本フィル、日本フィル、東京フィル、神奈川フィル、ウィーン サロン オーケストラ、ラトヴィア国立交響楽団、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。2012年、2014年には、イタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。2011年ウィーンでのリサイタルではピアノ専門誌の表紙を飾り「パーゼンドルフアー・アーティスト」の称号を受ける。パーゼンドルフアー(1829年製)、ブレイエル(1843年製)、エラール(1868年製)などを所蔵し、歴史的楽器の演奏会や録音にも数多く出演。それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追求する。2010年、ショパン生誕200年記念年には、全国各地でブレイエルを使つての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇后陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。また音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは、朝日新聞・天声人語にも紹介される。これまでにCD10作をリリースし「ハイドンとモーツァルト」は毎日新聞CD選、レコード芸術推薦版に選ばれ、「ベートーヴェン”テレーゼ”」"ワルトシュタイン"」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン演奏」などの評価を得る。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「原典版で弾きたい!モーツァルトのピアノソナタ」(アルテスパブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」(学研パブリッシング)など。国立音楽大学准教授、日本ラトヴィア音楽協会理事 久元祐子ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>

◆取り上げる曲目◆

- ♪ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調「月光」
- ♪ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調「悲愴」
- ♪ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調「ワルトシュタイン」
- ♪ピアノ・ソナタ 第31番 変イ長調

日時: 2015年11月13日(金) 10:00-12:00

会場: ピアノハープ社 ピアノギャラリー

※弊社併設駐車場には限りがございます。事前にお問い合わせ下さい。

受講料: 熊本支部会員 2,000円
 ピティナ会員 2,500円
 一般 3,000円



【申込方法】

下記の申込書にご記入のうえ、お電話またはFAXにてお申込みください。ピティナHPからのお申込みも可能です。
<http://www.piano.or.jp/seminar/list/>

【主催・お申込み・お問合せ先】

ピティナ 熊本支部 (ピアノハープ社内)
 TEL:096-386-8248 FAX:096-386-8250

◆ 2015年11月13日(金) 久元 祐子先生 講座申込書 ◆

氏名	ふりがな	種別	<input type="checkbox"/> 熊本支部会員 <input type="checkbox"/> ピティナ会員 <input type="checkbox"/> 一般		
住所	〒	e-mail			
		TEL	()		
		FAX	()		

※お客さまが本書面に記載された個人情報は、法令で定める場合のほか、お客さまの承諾なしに他の目的には使用いたしません。